

多層指導モデルMIMを用いた「読み」の流暢性の育成

読むことへの課題を抱えている子どもが多い

学習障害 (LD) の子供は、通常の学級に約4.5%の割合で在籍するとされ、その中でも読む能力に困難がある子供が多いと言われている。

また、ひらがなの習得の遅れやつまづきは、その後の読み書きの困難につながる。

小学校の低学年から読みについての効果的な指導が必要となる。

多層指導モデル MIM の活用が効果的

「MIM」(Multilayer Instruction Model)とは通常の学級で異なる学力層の子供のニーズに対応し、アセスメントと指導を繰り返しながら子供たちの読みやすさを育むための指導・支援をするモデルである。
特に低学年からの活用によって大きな効果が見られる。

「読み」の流暢性 (文字や語を正確に素速く読むこと) を育むための指導のポイント

① 読みのつまづきで多くみられる「特殊音節」(のびる音、つまる音、ねじれる音)を正確に読むことができるようにする。

★ルールを明確化 (視覚化や動作化を通じた音節構造の理解) する。

- ・視覚化では
促音、長音、拗音、拗長音の音節構造に合わせて視覚化を行い、音のイメージを捉えやすくする。(例) ねこ→●●、ねっこ→●●●
- ・動作化では
目に見えない音の特徴を具現化することにより、特殊音節のルールを学ぶ。音と動作、文字を対応させる。
(例) ●については手を一回たたき、小さい●については両手をグーに握り、音を出さないようにする。

【MIM使用教材例：ことば絵カード・ちょっとプリント・3つのことば探し】

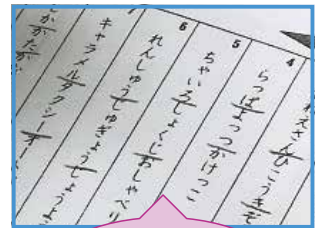


促音「っ」について、動作化し、音と動作、文字を対応させる。

② かたまりとして語を捉えることによる読みの速度の向上

★視覚性語彙 (一目見ただけで、その語をなんと読むか、どういう意味か認識できること)を増やすことにより、読みのスピードを増し、読むことへの疲労感の軽減をはかる。

【MIM使用教材例：ルール説明用カード・ことば絵カード】



3つのことばさがしを活用し、かたまりとして語を捉えられるようにする。

③ 日常的に用いる語彙の拡大と使用

★語や文を自分の中で豊かにイメージできるよう、語彙を増やし自由に操る力を養う。

【MIM使用教材例：はやくちことばしゅう・ことばあつめ・もしも作文】

全体から個へ 効果的な3層構造の指導体系

1stステージ 通常の学級内での効果的な指導

- ・全児童に対して、効果的な授業を行うとともに、朝学習等の隙間時間に特殊音節や読みの流暢性の定着をねらった日常的な活動を取り入れる。

2ndステージ 通常の学級内での補足的な指導

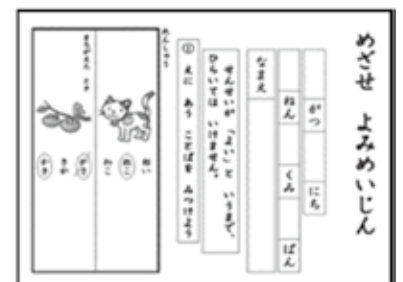
- ・説明は学級全体の児童に対して行うが、その後の個別学習については、個別支援を必要とする児童を重点的に指導する。

3rdステージ 補足的、集中的、柔軟な形態による特化した指導

- ・1stステージ、2ndステージでは、伸びが乏しい児童に対して指導を行う。

子供の伸びを捉えるアセスメント (めざせ よみめいじん)

- ・月に1回程度実施する。
 - ・テストは2種類行う。
 - ・通常の学級で一斉に行う。
 - ・各テストは1分ずつで実施。(説明、配布、回収で約10分)
- 定期的、継続的に実施することで子供の伸びについて把握することができる。



一斉指導

個別支援



アセスメントと指導のサイクルを回すことによって、指導効果が高まる。



★MIMの効果的な活用の紹介★
「特殊音節指導の工夫」と検索
→『【東書Eネット】【東書教育シリーズ】動画で分かる！特殊音節指導の工夫』